ボーリング柱状図

調　査　名　東南海・南海地震予測のための地下水等観測施設整備工事(三重県飯高町地区)

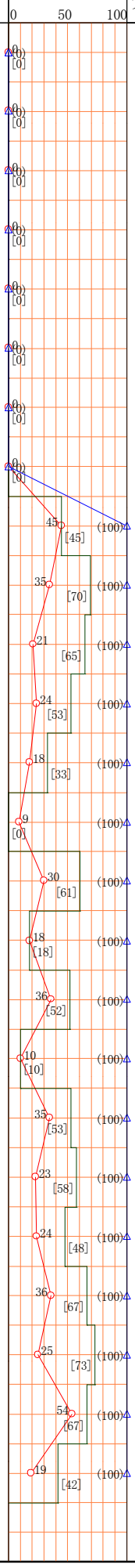
ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	孔３	調査位置	三重県松阪市飯高町赤桶字羽白又１６８０			北緯	34° 27’ 11.10″
発注機関	産業技術総合研究所地質情報研究部門			調査期間	平成 19年 6月 29日 ～ 20年 5月 30日	東経	136° 18’ 46.34″
調査業者名	株式会社　日さく 電話（052－432－0211）	主任技師	渡辺寛	現場代理人	伊藤勉	コア鑑定者	高木信彦	ボーリング責任者	伊藤勉
孔口標高	296.596m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0°　270° 西　90° 東　180° 南	地盤勾配	鉛直 90°　水平 0°	使用機種	試錐機：利根ＴＸＬ－３Ｇ
総掘進長	30.00m								エンジン：日産ディーゼルＮＰ－６０　ポンプ：ガードナーデンバー

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	N値	原位置試験	室内試験	掘進状況：掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
6				盛土・礫混じり土砂	灰						砕石を混入する。 礫混じり砂を主体とする。 含水少ない。														
7	289.50	7.10																							
8				砂礫	灰						トーナル岩礫を多く含む砂礫。														
9	286.80	9.80																36.3	116	116mmコアチューブ	0.5～1.0	90	0.5	清水／80	80
10	285.90	10.70		砂礫	灰						カタクラサイト礫を多く含む。														
11	283.80	12.80		礫	暗緑灰						塩基性岩（斑レイ岩）														
12				砂礫	灰						カタクラサイト・斑レイ岩礫を含む。														
13	283.60	13.00															10/29								
	283.10	13.50				C	IV	b	β		礫状コア。岩片には方解石の細脈が網目状に見られる。						28	30.0			0.5	90	0.0	0	0
14				斑れい岩	暗緑灰	B	II	a	α		暗灰色の色調を示す塩基性岩石。 岩石の組織は不明瞭。方解石の細脈が網目状に見られる。 13.5m付近に角度約70° の亀裂が見られる。 14.5m付近に角度約70° の方解石脈が見られる。 16.5m付近に緑簾石脈が見られる。						11/3	60.0			2.0～3.0	40	0.0	50	50
																		40.0			2.0～3.0	200	0.0	60	60
15	280.90	15.70															11/16	20.0			2.0～3.0	200	0.0	60	60
16							III				全体として棒状コアで硬質。 15.85～16.10m割れ目が多く片状。 方解石の新しい脈・緑簾石の古い脈が見られる。														
17	279.20	17.40																66.7			2.0～3.0	200	0.5～1.0	80	80
	278.90	17.70					IV				コア外形を示すが、割れ目が多く片状コア主体。														
18	278.30	18.30					III				棒状コア。角度60° の亀裂が見られる。 亀裂とは比調和な角度60° の方解石脈脈、角度70° ～80° の緑簾石脈が発達する。														
19	277.50	19.10				C	IV				岩片状コア主体。全体に弱脆弱化している。														
20	276.70	19.90					II				棒状コア主体。全体に若干脆弱化している。19.7m付近では岩石の組織が不明瞭となっている。							82.1			2.0～3.0	200	0.5～1.0	80	80
	275.80	20.80				B	IV				棒状～片状コア。幅1cm程度や亀裂と調和的な方解石脈が見られる。														
21	275.10	21.50		トーナル岩	灰	B	II	a	α		棒状コア主体。							24.0			2.5	200	0.5	80	80
22	274.40	22.20					III				棒状コア主体。不規則な形状の割れ目が多い。角度40° 60° の方解石脈が見られる。							10.0			2.5	200	0.5	80	80
	273.45	23.15		斑れい岩	暗緑灰	C	IV	a	α		片状～棒状コア主体。棒状部分に角度60° の方解石脈が見られる。						11/17	14.6	98	HQWL	2.0～3.5	200	0.5～1.0	60	60
24	271.60	25.00		トーナル岩(斑れい岩)	暗緑灰～灰	B	III	a	α		塩基性岩とトーナル岩が混在する。 両者の境界は不明瞭で亀裂や割れ目と関係しない。 トーナル岩部分では角度60° ～70° の流離が見られる。							71.5			2.5～3.5	200	0.5～1.0	60	60
25	270.00	26.60		斑れい岩	暗緑灰	B	III	a	α		棒状コア主体で部分的に片状となる。 角度20° の低角度と角度60° ～70° の亀裂が見られる。 方解石・緑簾石の脈が見られる。脈と亀裂は比調和。							120.0			2.5～3.5	200	0.5～1.0	60	60
27							II	a	α		棒状コアで硬質。 28.5mに幅3cm程度の石英脈が角度60° で層状に挟まれる。 方解石の脈が多く、細脈が網状に部分する部分が見られる。 緑簾石脈も少量見られる。														
29	267.30	29.30																123.3			2.5～3.5	200	0.5～1.0	60	60
30	266.60	30.00					III				棒状コアで硬質。 方解石の脈が見られ、網状に分布する。						11/18								



（ルジオン　標準貫入　）試験

（Ｐ～ＱＮ値～深度）図
[] : ルジオン値
() : 換算ルジオン値
《》: 限界圧力

N値 0 10 20 30 40 50